

科目名：日本経済

【出題意図】

現代の日本経済の諸問題との関係が深い、バブル崩壊後の雇用制度・金融制度の変容について、その歴史的背景も含めた知識と理解を問う。

【採点基準】

問題1 (配点 60)

歴史的背景として、

- ・ 1985年のプラザ合意を契機とした円高の進行
- ・ 円高不況に対応するための低金利政策
- ・ 低金利政策の結果としての過剰流動性の発生

といった経緯について、どこまで言及できているかに応じて、説明の正確性も踏まえた上で得点を与える。

バブルが膨らんでいったメカニズムとして、

- ・ 株式市場や不動産市場への資金流入
- ・ 株価や地価の上昇による、さらなる上昇期待の形成（特に不動産市場における土地神話の形成）
- ・ 上昇期待に基づく投資の過熱と、さらなる金融資産価格の上昇

といった原理について、どこまで言及できているかに応じて、説明の正確性も踏まえた上で得点を与える。

バブルが崩壊した経緯として、

- ・ 日銀による政策金利の引き上げ
- ・ 不動産関連融資の総量規制
- ・ それらを契機とした、株価・地価の反転・下落
- ・ 資産価格低下による売却の加速と、さらなる価格下落

といった経緯について、どこまで言及できているかに応じて、説明の正確性も踏まえた上で得点を与える。

問題2 (配点 40)

金融制度に生じた変化として、

- ・不良債権問題を背景としたメインバンク制の弱体化や株式持ち合いの解消
- ・企業の資金調達における直接金融のウェイトの高まり
- ・外国人投資家や機関投資家の株式保有割合の上昇

といった諸点について、どこまで言及できているかに応じて、説明の正確性も踏まえた上で得点を与える。

雇用制度に生じた変化として、

- ・長期不況下における人員削減の発生と終身雇用制の弱体化
- ・それにとまなう非正規雇用の拡大
- ・成果主義賃金の導入と年功序列型賃金のフラット化
- ・労働者の技能形成におけるOJTの縮小

といった諸点について、どこまで言及できているかに応じて、説明の正確性も踏まえた上で得点を与える。